

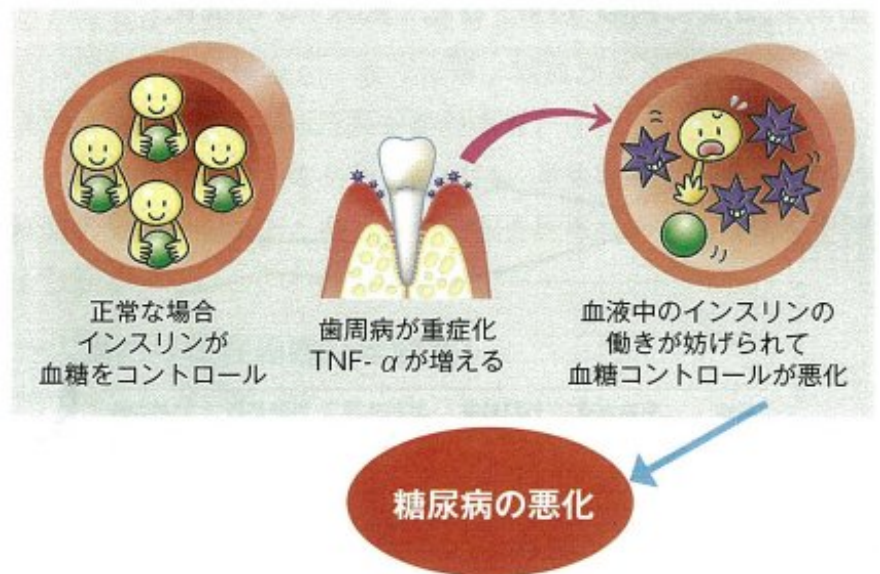
歯周病は糖尿病の合併症のひとつ

～ 歯周病が糖尿病を悪化させることも～

糖尿病は、血液中のブドウ糖濃度が高い状態が続くことで、からだ中の血管が傷つき、それによって末梢神経や腎臓、目の網膜など、さまざまな器官や臓器に異常が現れ、合併症を伴い死にいたる怖い病気ですが、近年、ますます増加しています。

糖尿病が発症・進行する主要なメカニズムのひとつに、肥大した脂肪細胞から大量のTNF- α (※1)が放出され、血糖をコントロールするインスリン (※2)の働きをブロックすることが挙げられています。このTNF- α は、歯肉の炎症からも産生されるので、歯周病があると血液中のTNF- α が増加し、インスリンの働きを妨げます。つまり歯周病が血糖コントロールをさまたげ、糖尿病を悪化させると考えられています。

歯周病の重症化が糖尿病を悪化させる



※1 TNF- α 炎症性サイトカイン（脂肪から産生されるたんぱく）のひとつ。もともと、腫瘍（がん）を壊死させる腫瘍壊死因子として発見された。適量では、からだに必要な物質となるが、増えすぎると、からだのいたるところに問題をおこす。

※2 インスリン すい臓で分泌されるホルモン。血糖をコントロールする。